

<今回>290回目 2021年2月22日(月)15時～18時 1503号室  
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p282、貴倭の女王 より

<前回>289回目(21-1-8)出席者 5名  
資料(21-1-8-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 正月になったら感染症が減るかと思っていたが、逆で驚いた。原因が寒冷、乾燥と東京在住の保菌者が都内のあちこちに出て、むしろ故郷に帰らなかったからか。この会も肺がん、胃がんの患者が出て、ゆつくり養生してもらい機会にしたい。感染者が減少傾向に転じなければ中断も考えたい。その後かながわ県民センターから1月12日から2月7日まで会場閉鎖の連絡が来て、次回予定の1月25日と2月5日は中止を連絡した。

B資料 1949年北朝鮮黄海北道の安岳3号墳の壁画に半円形の毛房を上下に3つ重ねた長い棒状のものがあり、節と考えられていると高山氏が報告した。同時のこの古墳には被葬者を示す墨書銘があり、使持節の高官が葬むられていたという。使持節、都督諸軍事、平東將軍、護撫夷校尉、樂浪口、昌黎、玄菟、帶方太守、都郷侯(遼寧省から朝鮮に亡命した冬寿という人物ではないかと見られている。)共同通信社が2005年9月に東京で実物大の写真版、高句麗壁画古墳の展示会をしたときのA4大、図版359頁の図録に安岳3号墳が66pから99pまで詳細に紹介されている。

C 読書 p274 三日本書紀の証言 から

- 1)「貴国」とは。3世紀の三國志の邪馬壹国と5世紀の後漢書の邪馬臺国とは同一の王朝である。神功紀に引かれた百濟記に貴国の表記がしばしばある。百濟記5か所、百濟新撰3か所、百濟本記17か所(百濟の古記録は百濟が滅亡したので、半島の歴史書三國史記、三國遺事にも百濟の記事は日本書紀より少ないとも言われる。固有名詞として日本(倭国)の事を古来使用されていたかもしれない「木」や「紀(和歌山)」でなく百濟側が尊貴の意味で「貴国」と書いた。
- 2)では貴国はどこか。和歌山を表す「木」、「紀」が古来首都であったことはない。北部九州の大宰府の近くに基山、基肆城という名の残る地域があり、ここが主要な場所であることは一目瞭然である。
- 3)考古学上「テル」と呼ばれる、とは席上山本充子さんが調べてくれて、遺丘tell、集落が層状に積みあがった場所、(古来からの重要な場所)。という意味であることが解った。
- 4)伝承、筑後風土記の引用。(藤原)公望案ずるに、筑紫が前後に分けられる以前に、此の境の急峻な坂を苦勞して超えた地名説話が2はなく1, 3, 4が示されている。いずれもツクシの音である。現地音は今でもチクシである。特に3の伝承は境の上に荒ぶる神がいて、半数は死というので、「筑紫の君、肥君等占いて祖甕依姫を祝として祭らしめた(筑紫の神)」。それ以来死人は出なくなった。ここは中心地の資格を持っている。テルの地だ。
- 5)風土記について意見を交わした。次回参考資料を持ってくることにした。

次回日程 2021-2-5(金) 15時から18時 602会議室 会場閉鎖の為中止  
-3-5(金) 15時から18時 603号室  
-3-26(金) 15時から18時 602号室  
-4-9(金) 15時から18時 1503号室